

災害地名によるハザードマップの作成と比較

社会班: 犬賀 菜月、山田 夏綺、小林 功武、金沢 陽音、棒谷 悠太

Abstract

The purpose of this study is to reveal if “saigaichimei” is effective in finding areas which may be damaged by natural disaster. In this study, place names which include kanji that are often used as saigaichimei are saigaichimei. Then, the place names we use are only “aza”, “ooaza” and “koaza” in Osaka city. We could find that some areas which have saigaichimei are considered to be dangerous by comparing these areas to hazard maps in Osaka city. Also, we thought that saigaichimei is effective in checking dangerous areas because these areas had been damaged by disasters in the past. However, we couldn't verify if these areas are named after actual disasters.

要約

本研究の目的は、災害地名が被災リスクのある地域を知ることの有効性を明らかにすることである。本研究では災害地名としてよく使われる漢字が使用されている地名を災害地名とみなし、大阪市内の字・大字・小字のみを取り扱う。大阪市のハザードマップと、災害地名がついている地域を比較することによって、その地域は市のハザードマップでも危険とされていることがわかった。また、当該地域で過去に水害が起こっていたことから、災害地名は危険箇所を調べるのに効果的であると考えた。しかし、当該地名が実際に災害を由来とするのかを確認することはできなかった。

1. はじめに

災害地名とは、過去に現地で起こった自然災害が由来とされる地名のことで、主に同音異義の漢字が使われる。例えば大阪市北区の「梅田」の「梅」の漢字は「埋める」に由来し、埋立地で地盤が弱いことがわかる。私達は災害地名からハザードマップを作成し、既存の物と比較することで災害地名を調べることが災害に備えることに有効であることを示す。

2. 実験1

《調査方法》

- 1、災害地名一覧を基に災害地名の地域に印をつける。
- 2、白地図を使い比較しやすいようにまとめる。(図1)
- 3、現在のハザードマップと比較する。(図2、3)

《結果》

図2,3より、災害地名によるハザードマップと既存のハザードマップを比較すると、淀川が氾濫した場合のハザードマップでは沿岸部や川沿いにも災害地名が多くあることがわかった。しかし、2つのハザードマップを比較すると対応していない部分もあった。また、大和川、西除川、東除川、石川、神崎川、天竺川、高川、安威川、寝屋川、第二寝屋川、平野川、平野分水路、古川を調査すると、同様の結果が得られた。既存のハザードマップと私たちが作成したハザードマップを比べると災害地名を基に作成したハザードマップでは危険とされていても、既存のハザードマップでは危険とされていない

地域があった。これは、災害地名によく使われる漢字が使われた地域の地名が、災害とは無関係の理由でできた地名である可能性があることを示している。

《考察》

実験1の結果より、私たちは、このままでは災害地名が災害に備えることに有効であることを証明するには根拠不足であると考えた。

3. 実験2

《調査方法》

- 1、下記の地名辞典を用いて過去に水害が起きた地名を調べる。
- 2、《実験1》と同様に白地図を使いまとめる。(図4)
- 3、《実験1》で使用した大阪市のハザードマップと災害地名から作ったハザードマップと2で作ったものを比較する

《結果》

災害地名の地域と過去に災害が起きていた地域は基本的に大阪市のハザードマップにもチェックされていた。しかし、災害が起きていた地域の一部は大阪市のハザードマップには対応せず、災害地名から作成したハザードマップにのみしるしがされていた。

4. 考察

《実験1》で災害地名ではあるが現在のハザードマップに危険であると示されていない地域を《実験2》で調べると、過去に水害が起きていた地域がいくつかみられた。

5. 結論

考察より、災害地名を調べることは災害に備えるために有効な手段であると言える。ただ、過去に起きた災害を全て調べきれていないこと、また水害が起きたその当時の地名が現在の地名に変わった時期を調べることが出来ず、本当にその水害による変更であるかどうかの信憑性に欠けるものとなってしまったことが課題である。展望として過去の地名が現在の地名に変更された時期を調べることで、この研究をより信憑性が高く有意義なものにできると考えた。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

下中邦彦.1986『大阪府の地名』.株式会社 平凡社

溝手理太郎.1992『市町村名語源辞典』.東京堂

読売新聞社.「洪水危険、土砂崩れ注意…「地名」は警告する」読売新聞オンライン.
<https://www.yomiuri.co.jp/column/japanesehistory/20220221-OYT8T50054/>
2018-7-30 (参照2024-9-18)

大阪市.「マップナビおおさか」.大阪府 <https://www.mapnavi.city.osaka.lg.jp/osakacity-sp/>
2024 (参照2024-11-6)

福和伸夫.「第3回「地名に見る地盤の診断」」.SEIN WEB
<https://www.sein21.jp/TechnicalContents/Fukuwa/Fukuwa0103.aspx>
2009-1(参照2024-9-18)

週刊現代.「台風・大雨で壊滅する日本全国「危ない地名」リスト…昔の人は全部知っていた」.現代ビジネス

<https://gendai.media/articles/-/98890>

2022-8-26(参照2024-9-18)

長野県.「災害に関わる地名(全般)」.長野県

<https://www.pref.nagano.lg.jp/sabo/manabu/chizu-yomitoku-2.html>

2018-3-6(参照2024-9-18)

宇野宏司、谷口夏海.(2020).「災害地名による津波被災リスク顕示性についての検討」

://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/00_00201700.html.(参照2024-10-6)



図1 大阪市の災害地名からみる災害分布図

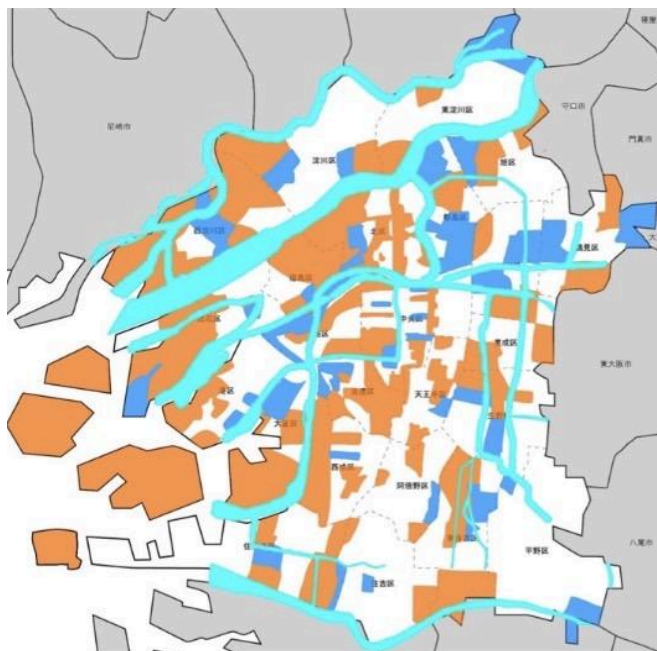


図2 災害地名によるハザードマップ

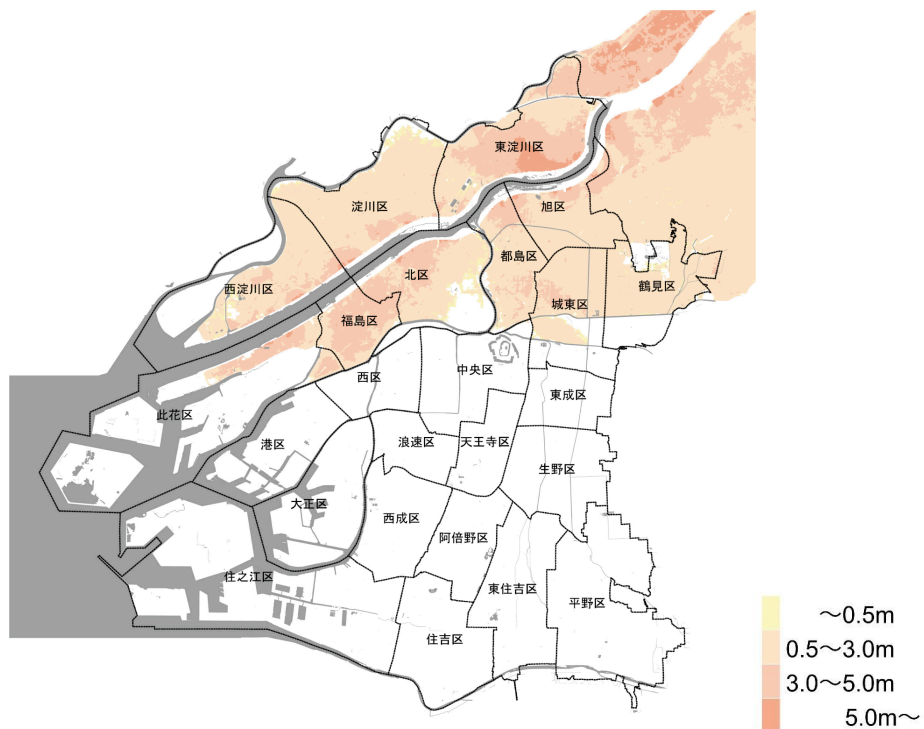


図3 淀川水害ハザードマップ(大阪市HPより)

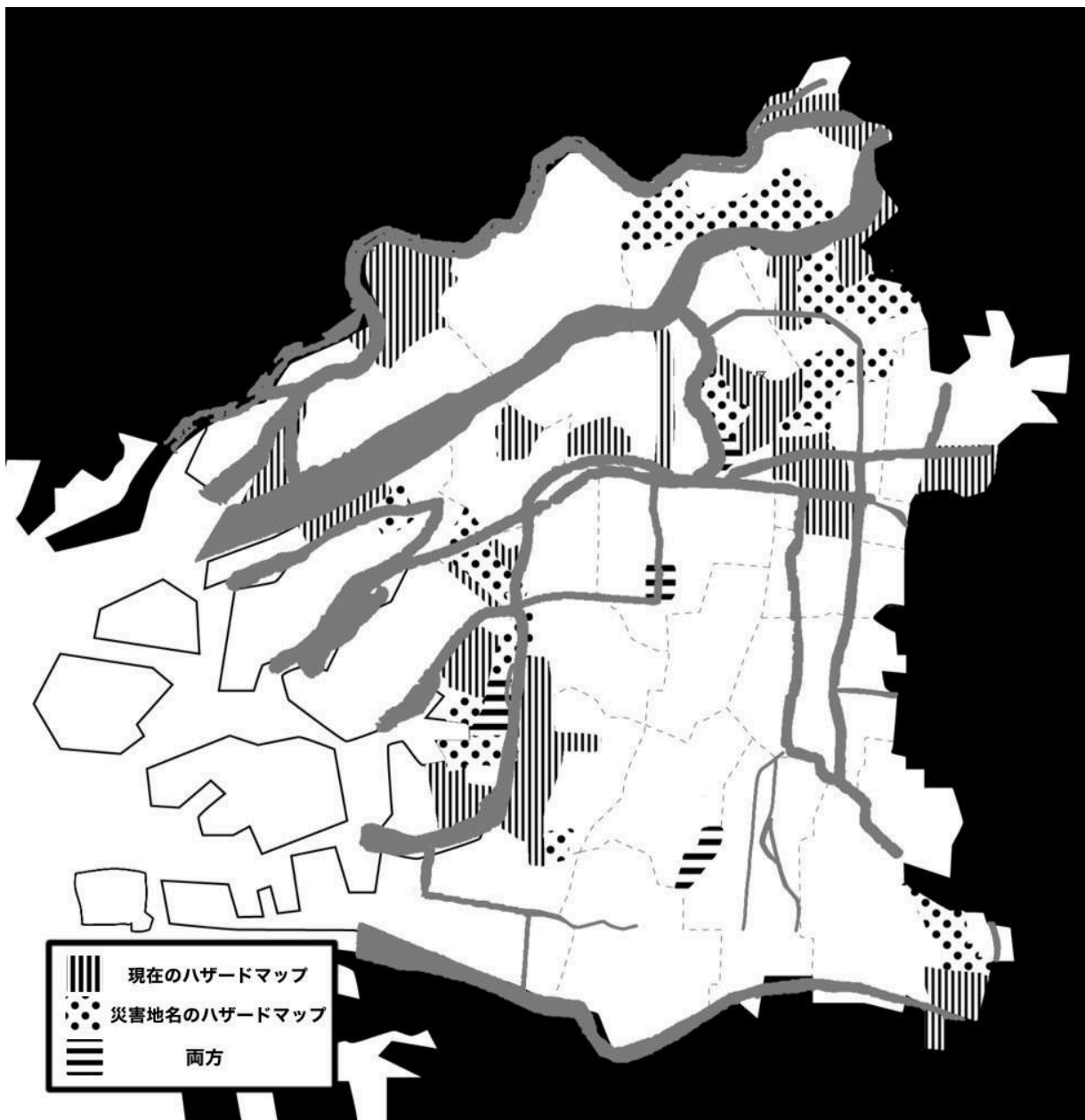


図4 ハザードマップの新旧比較

[凡例の説明]

- ・「現在のハザードマップ」…過去に水害が起こっており、現在大阪市が公表しているハザードマップと一致している地域。
- ・「災害地名のハザードマップ」…過去に水害が起こっており、災害地名として現在も残っている地域。
- ・「両方」…過去に水害が起こっており、災害地名としても、現行のハザードマップに載っている地域。